

電気をつくる・ためる・つかう——「自電自足」の住まいのエキスパート

電気を賢く使う最先端の暮らしを 体験館で体感しながら学ぶ

住宅は日々進化を遂げている。その好例がZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）の普及である。政府は2020年に「ZEHを新築住宅の標準とする」目標を定めており、わが家が、時代遅れとならないよう、当然知っておきたい知識だ。しかし業者でさえ十分に理解していない状況を憂慮し、恒電社が造ったのが「体験館」である。



「体験館」の内観。満洲な住居空間の中に、各種省エネ・創エネ設備がふんだんに設置されている

電気設備+空調+住宅をテーマに25年の実績

埼玉県に本社を構え、関東一円で電気設備を提供している恒電社。省エネ住宅のエキスパートでもある同社は、「Smart Eco House」を提案し、豊富な実績とノウハウを誇っている。全国に、ZEHに関する確かな知識・技術を持つ企業のネットワークを構築しているのも特長だ。

「1999年、次世代省エネルギー基準が制定され、高気密高断熱仕様の家が次々と建てられました。ところが、空気の流れが考慮されていない建物が多く、結露やカビが発生するというトラブルが相次ぎました。快適な住み心地には、気密、断熱、換

気、冷暖房が密接につながっており、全体を見据えた設計が不可欠なのだ——このことを知ってから、電気設備の奥深さに改めて気づかされたことが、当社が省エネ住宅のエキスパートとなった原点です」（恒電社代表取締役・恒石隆顕氏）

ZEH普及に当たり、恒石氏は、エンドユーザーのみならず、工務店などの建築業者でさえ、省エネや創エネに対する十分な知識・ノウハウを持つていないことに危機感を覚えたという。

各住宅に合った太陽光発電システム、蓄電システムはそれぞれどの容量が最適なのか、空調を効率化する間取りはどのようなものなのか——電気を創り、電気を蓄え、必要に応じた省エネルギーな機器を使用しスマー

トに暮らす。これらの理解が深まることで、これから始まるZEHの普及が進むと考えられる。

そこで恒石氏は、ZEH啓蒙・普及のための「体験館」を設立した。省エネ・創エネ製品を、単なるショールームではなく、住宅を再現した空間に落とし込んだ施設は全国でも珍しい。

「マイホームを検討するに当たり、最新のZEHのことを知りたい方、建て替えやリフォームを考えている方、建築業者の方も大歓迎です。多くの人に体験していただくことで、日本の脱炭素社会実現に貢献できればというのが、当社の願いですから。建築業者の方とは、エネルギー効率のいい住宅づくりの良きパートナーとして、協力していければと思っています」（恒石氏）



恒電社
代表取締役
恒石隆顕氏



HEMSによる「見える化」を体験。状況を把握し、省エネ意識を高める、ZEHに不可欠な設備だ



日産LEAFは、一般的な住宅なら1週間程度の電気供給が可能だという



エコキュート、創蓄連携システムを配した屋外を再現したスペース。サイズ感や騒音レベルを確認できる

気になる住まいの電気設備 体験して分かることもある

恒電社本社1階に設けられた「体験館」のドアを開けると、そこには広いLDKが広がっており、まるで瀟洒な住宅のよう。この空間に、電気の消費を「見える化」するHEMS（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）や、オール電化キッチン、スマート分電盤などが設置されている。また、一角に屋外空間も再現されており、ここに創蓄連携システム、エコキュートが配されている。さらに、屋外には電気自動車の日産LEAFが置かれていて、太陽光発電で創られた電気が充電される様子や、これを利用した電力供給も体験できる。

このほか、電解水素水整水器



恒電社
取締役
エネルギー
マネジメント
アドバイザー
門司廣之氏

家庭用軟水器、節水型トイレなど、暮らしを快適にする住設備も取り入れられている。理想の住まいづくりのモデルルームとしても、大いに活用できそうだ。「例えば、停電時は太陽光発電で創った電気が自立運転に切り替え使用できますが、その容量はわずか1500Wしか使えません。そうしたことですらあまり知られていないのが実情です。多くのお客さまが、停電時に大容量の蓄電池を利用して電気を使うところや、地震の揺れを感じ知しブレーカーが落ちるところなどを体験され、「なるほど、こういうことなのか」と感心して帰っていかれます」（同社取締役 エネルギー・マネジメントアドバイザー・門司廣之氏）

ショールームやカタログで見たことがある電気設備も、生活空間の中で実際に作動するところを見る機会はなかなかない。

「エコキュートのヒートポンプがどれくらい騒音を出すのか、実際に設置したときのサイズ感ほどの程度なのか、といったことを確認されるお客さまも少なくありません」（門司氏）

ありがたいのは、単に見せるだけでなく、恒石氏、門司氏らのスタッフが、丁寧に説明して

くれること。質問にもしっかりと答えてくれるので、一度見学しただけでも、ZEHに対する理解が一気に深まる。

「建物の形状、毎月の電気使用量、ライフスタイルなどによって、電気設備をどう構成するかは答えは違ってきます。お客さまや建築業者の皆さまと一緒に、いろいろなソリューションをゼロから創り上げられることが当社の強みです」（恒石氏）

これからの家づくりに欠かせない、省エネ・創エネという視点。これを実現する心強いパートナーとの出会いの場として、一度、体験館を訪れてみてはいかがだろうか（体験館の見学は、事前の予約が必要）。

お問い合わせ

株式会社恒電社
〒362-0811
埼玉県北足立郡伊奈町西小針6-108
☎048-728-4283
営業時間／9:00～18:00
定休／日曜、祝日（体験館は、事前予約により調整可能）
<http://jidenjisoku.jp/>